

20年の主なできごと

- 昭和31年
三ヶ村合併 (9/28) 潮止橋木橋から永久橋に (11)
- 昭和32年
八潮有線放送はじまる (2/16)
- 昭和33年
八潮だより発刊 (3/25) 生活改善運動七五三の祝 (11/15)
- 昭和34年
八潮第一簡易水道完成 (10/22)
第一回村民体育祭 (11/1) 工場誘致条例制定 (12/18)
- 昭和35年
国民年金証書交付 (2/24)
- 昭和36年
統合中学校新設 (八潮中学校) 新村建設計画決定 (6/10)
- 昭和37年
八潮村公明選挙推進協議会発足 (6/1) 小学校の校名変更 (9/1)
- 昭和38年
村全体が工業用水指定地域 (6/1)
- 昭和39年
小中学校建設促進協議会設置 八潮中体育館完成 (7/10) 八潮町誕生 (10/1)
- 昭和40年
潮止橋西詰東側舗装工事はじまる (9/3) アメリカシロヒトリ大発生 (夏) 町全体が草加都市計画区域に (9/2)
- 昭和41年
合併10周年式典 (9/28)
- 昭和42年
東部清掃組合し尿処理場完成 (2/1) 町長に太田武夫氏就任 (4/28)
- 昭和43年
草加八潮工業団地竣工 (9/27) 交通安全対策協議会発足 (5) 八条潮止支所廃止 (4/1)
- 昭和44年
南川崎保育所開所、町営住宅完成 (はじめて) (4) 町内の農協が一本に (4/1) 八潮町総合振興計画まとまる (10/9)
- 昭和45年
米の生産調整実施 (4) 第三小と第四小の屋上に大気汚染測定器設置 (7/7) 八潮市消防署完成 (6)
- 昭和46年
八潮団地伊草団地入居はじまる 八潮新庁舎完成 (12/6) 区画整理事業スタート (7)
- 昭和47年
八潮市制施行 (1/15) 市長に鈴木慶助氏就任 (7/31) 6つの課新設 コンピューター導入 (4)
- 昭和48年
県立八潮高校誕生 (4/1) 市長に鈴木泰治氏就任 (7/31) 八潮音頭誕生 (8/10)
- 昭和49年
公共下水道計画決定 (3/28) 利根川の表流水導入 (4/1)
- 昭和50年
八潮市廃棄物越境対策協議会設置 (5/1) 公害防止条例設置 (6/10) 国勢調査実施人口56,124人に (10/1)

合併20周年・市制施行5周年記念特集



村から町へ 20年の歩み

合併して二十年、市制施行して五年。時間を数えると大変長い期間でした。しかし、一つ一つのできごとを追ってみると、またたくまの期間であったようにも思われます。この機会に二十年・五年の歩みをじっくりみつめなおし、明日の八潮の前進を考えてみたいものです。

八潮のあけぼの、

昭和二十八年十月町村合併促進法が施行され、それに基づき、昭和三十一年九月二十八日、八幡村、潮止村八条村(立ノ堀は草加市へ)の三ヶ村の合併で八潮村が誕生しました。その当時は人口も一万二千八百四十人と非常に少ない人口で財政を見ても三千四百二十二万円と今から考えると小規模なものです。

村民はほとんどが農業従事者で工場に勤めていた人は僅か千百五十八人でした。あたり一面が田園地帯で、道路は砂利道で舗装道は一つもありませんでした。新しく村を建設するにあたって村では次のような方針をたてました。

「三ヶ村の大同団結によって、地方自治体としての財政力の強化

と行政能力の向上をはかり、産業の振興、教育の充実、文化の向上を期し、農業及び商工業の合理化並びに均衡的施策を行い更に都市計画を実施して工場を誘致し、道路網を整備し、住民全般の福祉の向上をはかるものとする」

おらが村が町に

合併後、一番大きな課題になったのが、三ヶ村の村民がいかに心を一つにするかということでした。例え合併しても村民がバラバラでは村政もおぼつきません。

「大同団結」これこそ新しい八潮村を建設するにあたり、必須の条件でした。

そのため、村では村民の心を結ぶ事業として有線放送業務を計画し、三十三年二月十六日からスタートしました。当時は電話も普及

しておらず、電話加入の世帯は指折り数える程度でした。有線放送電話の加入で三村の方達は直接話し合うことができ、また日常の出来ごと、お知らせなどが家に居たままでも知ることができ、合併直後の三村の方々の親近感は深まり、距離感は一層縮まりました。

昭和三十三年には「八潮だより」が全戸に発行され、昭和三十四年には特に生活用水に恵まれなかった各家庭に蛇口から便利に供給できる第一簡易水道が完成しました。

また、村民が一同に集って楽しむ第一回村民体育祭が開催されました。そして三十六年には三ヶ村の中学校が統合して、八潮中学校が誕生しました。

こうして、名実ともに八潮村の体勢づくりが順調にすすみました。昭和三十四年十二月、村の財政を豊かにし、村政を進展させると共に、産業の振興をはかるため工場誘致条例(昭和三十四年・昭和三十八年まで)が制定されました。これにより、工場の進出が著しくそれに伴って人口も増加の一途をたどりました。そして、昭和三十九年、町としての昇格要件が整い十月一日八潮町が誕生しました。

回顧録



下二丁目 田中忠五郎さん
以前は私の家からでも富士山がよく見えたんだけど、ちょっと淋しいね。

工場がふえましたね、というのも私の方は地盤が高く、水がこないの、米がとれなかったんだ。だから土地を手離す人が多かったんでしょね。



有線放送は便利だったね。でも故障が多かったね。私も役員をしていたからよく修理の手伝いしたもんです。



八条 宇田川市郎さん
20年前に比べると何もかもよくなりましたね。合併の頃は騒々しかったんですよ、連日むしろばたを立てて、草加合併派の人たちが役場に陳情しにきたんですよ、とにかく合併時はいろいろなことがありましたね。

道路もよくなりましたが福祉がよくなっていますね。私など年をとりますとありがたことです。医療費も無料です。

市制施行

豊かな街づくりをめざして

町になってからは、首都東京に隣接する地理的条件も手伝って、工場、住宅、人口はますますふえつづけました。

特に、人口の場合、四十六年の八潮団地、伊草団地の入居がはじまる頃を境にして、急激に増加いたしました。

そのため、学校用地の買収や建設に追われることになりました。

昭和四十四年第四小学校建設、昭和四十七年第五小学校、第六小学校第二中学校の建設、昭和五十年第七小学校の建設、仮称第八小学校第九小学校、第三中学校の用地買収、その他、第一小学校、第二小学校の改築、第三小学校の増築、各小学校プールの建設、体育館の建設と、僅かな期間のうちに莫大な費用が投じられることになりました。

いずれにしても、文化都市八潮の建設は今踏み出したばかりです。市民の皆さんと二十年(五年)をふりかえり、これを土台として明日の八潮を考えてゆきましよう

これらの現状を踏まえて、町では四十四年八潮町総合計画を決定いたしました。そして、更に豊かで秩序ある街づくりをめざして都市計画を決定し、それに基づいて区画整理事業を計画し、四十六年には第一区画整理事業を実施し、豊かで秩序ある街づくりの第一歩を踏み込みました。

四十六年十二月には新庁舎が完成し、四十七年には特別措置法の定める市としての要件が備わり、埼玉県では三十四番目の市として市制を施行しました。

これにより、組織の一部を改編し、コンピュータの導入等により事務改善を行い、新しい文化都市八潮を建設する体制を整えました。また、市制施行と同時に福祉事務所を発足させ、遅れがちな福祉行政を進展させることになりました。

明日の八潮を考えてゆきましよう

難局を皆さんと共に



八潮市長 鈴木泰治

あり、行政の簡素合理化であり、自治意識、住民参加のあり方の探求であると思っています。本年は、八潮市にとりまして頂度、昭和三十一年九月二十八日、三村合併以来二十周年を迎え、また市制施行後、五年目を数える意義深い年であります。今日に至る歩みの中には、ひた

すら郷土の進展と住民の幸せを願ひ、献身的に努力された多くの先輩の方々や住民一人一人のご協力のおかげであります。深く敬意を表するものであります。

今日、首都近郊都市として人口五万六千有余人を数えるに至りました。当市の行政需要は、都市基盤や環境の整備、教育文化の充実、市民福祉の諸施策等、事業は無限に拡大山積しておりますが、限られた財政の中にあっても、施策の選択を十分に

に行ひ、意欲を結集いたし、難局に対処してまいりたいと思ひます。皆さまの一層の合意と協力を支えとし、努力する決意をあらたにいたし、年頭に当り、市民の皆さんのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、ごあいさついたします。

あけましておめでとうございませう。早いもので、私が市長に就任して三度目の新春を迎えました。

この間の月日を回想いたしますと、いまさらながらその流れの早いことを感じます。それにつけてもこの間にお寄せ下さった、皆さまのあたたかいご支援とご協力に、対し深く感謝いたし、お礼申し上げます。

一昨年のオイルショックに端を発した異常な品不足で、日常生活が混乱の窮地に立たされた苦しい経験は今なお私の記憶にあたらしいものがあります。

そして昨年は、インフレ、深刻な不況、物価高の進行がこれに代り、あいまって政治行政ひいては地方自治の面にも大きな影響をもたらした、財政運営をはじめとする厳しい

ね、とにかく、今はよくありませんでした。昔は私の家からは松原が見えたんですよ。私の家は昔から運送業をしていたんで、自動車も早くからありました。当時は自動車もほとんどなかったんですよ。